

長野県図書館協会
デジタル版 小中学校図書館部会だより
第159号（令和3年度）

第71回長野県図書館大会（中野・下高井大会）を終えて

県図書館協会小中学校部会中野・下高井支部長
中野市立高丘小学校 松本 孝志

1 はじめに

11月6日（土）に第71回長野県図書館大会が中野市豊田文化センターをメイン会場に、県下4地区8サテライト会場で開催されました。各会場の参会者に Zoom 視聴者を加えた564名の参加者が『地域と共に知り、共に創る』をテーマに熱心に語り合いました。

開会式での原山教育長、宮下大会長、湯本中野市長からの挨拶に続き、『真に豊かな社会を考える～混迷する時代を読み解き、共に未来を創るために～』と題し、大阪市立大学准教授の斎藤幸平先生のWEBによる基調講演を拝聴しました。続いて行われた分科会では、小中図書館部会と公共図書館部会に分かれて実践発表と意見交換を行いました。



2 小中図書館部会（分科会①）の様子から

小中図書館部会の分科会は豊田小学校をメイン会場に県下4地区4サテライト会場を結んで行われました。最初の基調発表では高社小学校司書教諭の中村仁志先生によるICTを用いた読書活動の実践について発表していただきました。続いて基調報告として司書教諭・学校司書合同委員会代表の3名の先生方による「学校図書館のICTの現状」「読書の幅を広げるタブレットの活用」「コロナ下の学校図書館運営」のアンケート報告やワークショップを行っていただきました。その後、サテライト会場ごとに意見交換を行い、各サテライト会場をリレー式で繋ぎ、意見交換や質疑を双方向で行いました。参会者の皆様からは、「学校全体を巻き込んでの中村先生の実践は大変参考になった。子どもたちのために自校でも幅広い読書活動を展開していけるよう工夫したい」「コロナ下の図書館運営やタブレット活用は各校共通の課題であり、この大会をきっかけに他校と情報交換をしながら進めていきたい」等の感想が寄せられました。



3 おわりに

今回の大会に向けて、中野市教育委員会・中野市立図書館を中核に実行委員会が組織され、県関係の委員会や部会と連絡を取り合い、ご助言をいただきながら推進してまいりました。多くの皆様にご協力をいただき開催することができましたことに心より感謝申し上げます。また、メイン会場、サテライト会場、Zoom視聴を含め、参加して大会を支えていただいた全ての皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

最後になりましたが、この大会及び図書館教育のますますの充実と発展をお祈り申し上げ、開催地を代表しまして、お礼の挨拶とさせていただきます。

第7 1回長野県図書館大会(中高大会) 参加者の声

エージェンシーを育む新しい図書館像 (中高大会に参加して)

県図書館協会小中学校図書館部会

副部会長 小布施町立小布施中学校 川本 修一

本大会の趣旨である「新しい図書館」をより具体的にイメージすることができました。

図書館の大切さについてアインシュタインはこう述べています。

「あなたが絶対に知るべき唯一のものとは、図書館の場所である」と。図書館が確固たる存在としてそこにあることの尊さです。

さて、基調提案では 大会テーマである「地域と共に知り、地域と共に創る」の具現に向けて、グーグルクラスルーム「中野・下高井図書館協会」の開設や市発行のお便りによる地域への発信など、優れた取り組みが具体的に示されました。デジタルとアナログのハイブリッドでの実践です。

また基調報告では「コロナ下の学校図書館運営」「学校図書館のICTの現状」の2つのアンケートから集計分析と問題提起がなされました。実際にタブレットやスマートフォンを使ってのワークショップも体験していただきました。

今もなお、感染症対策に頭を悩ませる日々ですが、私は3つのSを基本において対応するようにしています。3つのSとは Safety Speedy Simple です。地域によって学校規模によって感染状況によって、適切な対応には違いがあります。私たちにはエージェンシーが求められています。「考える力、自ら動く力、変化していく力」です。

またICTの現状について、昨年のアンケートでは「やってみたいこと」であったものが本日の協議・情報交換では「やってみたこと・とりくんでいること」に変わったものが多々あったことと思います。それもまたエージェンシーです。子どもたちがICT端末を用いて一冊の本と出会い宝物を得ることもまた、エージェンシーです。

主体性を育む図書館運営やICTの利活用、私たち自身が受け身ではなく、指示を待つのではなく自らエージェンシーを発揮することなくして、児童生徒のエージェンシーの力はつきません。新しい図書館像としてエージェンシー(主体性)を育む図書館という具体的な一面をイメージすることができました。

最後になりましたが、大会運営に携わってこられた皆様、ご参会いただいた皆様に御礼申し上げて参加報告とさせていただきます。ありがとうございました。

中野市立中野平中学校 西澤 由里恵

11月6日に行われた今年度の図書館大会は「地域と共に知り、共に創る」というテーマで開催されました。また、前回に続きサテライト会場が用意され、分科会でもwebでつながって、意見交換等が行われました。

基調講演では齋藤幸平さんの「真に豊かな社会を考える～混迷する時代を読み解き、共に未来を創るために～」という演題で講演をお聞きしました。国外の話を含め、今まで考えたことがなかった視点を提示していただいた気がします。

分科会では小中学校部会の「ICTを活用した図書館づくり」に参加しました。高社小学校の中村仁志先生の発表では、学校図書館の校内での位置づけと基本計画、タブレットと図書館ツールを生かした調べ学習の実践など、興味深くまた、いろいろと考えさせられる内容でした。小中学校で児童生徒が一人一台のタブレットを手に行っている現在、何をどのようにして調べるのか、どのような資料を授業に生かすのか、しっかりと考えて利用していないといけなと感じました。意見交換の中で語られた、「タブレットを使ってどの資料の何を調べるのか」という視点は、今後、とても重要になると思います。安易に接続できるネットの情報は、正しいものも間違っているものも同等に溢れています。情報センターの図書館という立場で、どんな情報を紹介していくのか、考えていきたいと思っています。

また、図書館運営における新型コロナウイルス感染防止対応アンケート集計結果については、興味深く見させていただきました。自分も当時は、どのように対策するか司書の先生と考えると、学校図書館内のレイアウトや貸し出しシステム、消毒対応、授業対応など、いろいろと対応しました。今回の集計結果から、学校によって、市町村によって、図書館の規模によって、本当に、さまざまな対応があったことを知りました。そして、全国学校図書館協議会策定のガイドラインが非常に参考となることが分かりました。

図書館大会後に、共に創る読書活動の一つとして中村先生が紹介されていたブンルイブックスのしおりをいただきました。そこに添えられていたメッセージには「おわりははじまりです」とありました。大変、温かな気持ちになり、今回、参加して本当に良かったと思いました。

山ノ内町立山ノ内中学校 田村 久仁子

11月6日、中野市豊田にて第71回長野県図書館大会が開催されました。昨年に引き続きコロナ禍の中、集合研修とオンラインを組み合わせた研修となりました。

基調講演では、大阪市立大学准教授の齋藤幸平先生によるお話をオンラインにてお聞きしました。いま世界で取り組んでいるSDGsについて「人々は小さなアクションに満足している、企業がSDGsを使ってブランド化し、結局大量生産・消費を生んでいる」と話され、目から鱗でした。物質主義的なものにお金や時間を費やすのではなく、知的な豊かさを求めていくのが未来につながるのお話が大変心に残りました。

続いて分科会①に参加させていただきました。高社小の中村先生による「ICTを活用した図書館づくり」の発表では、高社小学校全体で先生方が連携し、学校図書館教育の目標に向けて努力されている様子が報告されました。タブレット導入後、図書館の資料を使った学習がほとんどなされていない学校が多く、高社小の取り組みがとても羨ましいという声が多かったです。タブレットと図書館の共存を図るには学校全体で志を同じくして努力していく必要があることを痛感しました。

また、コロナ下における図書館運営に関するアンケート結果では、本の消毒の問題や対面での読み聞かせの問題など、図書館が抱える悩み事がより明らかになりました。放課後、返却された本の消毒作業を行うため勤務時間をオーバーしてしまうなどの切実な声もありました。コロナがまだ収束しない中、これらの悩み事は続きます。「全国学校図書館協議会」のガイドラインがその都度見直され内容が修正されている事を今回初めて知りました。このガイドラインに基づいて対策をとりつつ、定期的に今回のようなアンケートを実施していただき問題点を共有できれば有難いと思いました。

図書館大会に参加したことで、図書館が秘める可能性はまだまだあるという思いが強くなりました。一人の力では難しいですが、子どもたちのためのよりよい図書館運営を日々模索していこうと思います。最後に、感染状況が日々変わる中、ご準備いただいた関係者の皆様に御礼申し上げます。

地区学校図書館教育研究会から

中信地区

10月15日 大町市立仁科台中学校 大町市立大町南小学校
「中信地区 学校図書館教育研究大会」を終えて

大北支部代表 大町市立大町北小学校 宮入 勝彦

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、リモート（Zoom）により開催。

1 研究テーマ 「自ら学び、豊かな心を育てる図書館教育はどうあったらよいか」

2 実践授業 ※当日の午前中に指導者を招聘して、校内体制で実践授業を行い、研究大会の中でその様子について、両校より発表。

実践発表校	授業者	授業学年・教科名・単元名	指導者
大町南小学校	清沢 梓 教諭	小学校2年・生活科 「電車遠足に行こう」	中信教育事務所 指導主事 白井 敬 先生
仁科台中学校	藤森 祐介 教諭	中学校2年・国語科 「仁中の図書館に入れるのに相応しい本とは？」	長野県総合教育センター 専門主事 鎌倉 大和 先生

3 講演

演題：「1台の機関車として」

講師：文平 玲子さん（市立須坂図書館 館長）

※須坂市出身。ポプラ社で編集部に勤務。「きかんしゃトーマス」を担当し、のちに翻訳も手がける。
2014年4月、公募により現職となる。

4 参加人数 40名

5 まとめ

当初は、両校に公開授業をしていただき、授業研究会を行うように計画しておりましたが、2学期初め、県下の新型コロナウイルス感染者数が増加し、その後の見通しも立たないという状況であったため、今年度の中信地区図書館教育研究大会は、リモート（Zoom）による開催とさせていただきました。

発表していただいた両校の実践は、図書館との連携が授業の中でどのように活かされているか、各校にとって、とても参考になる取組でした。

大町南小学校の「いわさきちひろ美術館見学」を題材とした授業では、様々な角度から切り込んだ学習を展開する中で、「子どもたちの『なぜ?』」に応える図書館運営」が、その活動を支えていました。

仁科台中学校の自分が書いたレポートによって、実際に図書館に入れる本を購入してもらえるという活動は、生徒の意欲を高めるとともに、自己有用感の向上につながっていくという、工夫された展開でした。文平館長さんのご講演は、「人生という線路を走ってきた機関車『文平号』のお話」で、70分間があつという間に過ぎ去りました。「先生方がトップハム・ハット卿になってください」という言葉が印象的でした。

SNSの普及やGIGAスクール構想の導入などで、私たちの日常には情報があふれています。このような状況の中で、学校図書館教育の意義が問われていると感じていますが、今後の学校図書館教育の方向性が示唆された機会になったと思いました。



大町南小学校の授業風景



仁科台中学校の授業風景

中信地区学校図書館教育研究会をきっかけに踏み出した一歩

大町市立大町南小学校 松田 智之

今年度、本校は実践発表をさせていただきました。ZOOMでのオンライン開催となりましたので、先生方に実際に授業を見ていただいたり、図書館に足を運んだりしていただくことはできませんでしたが、子どもたちの学びを支える図書館の役割の大きさについて、改めて感じる貴重な機会となりました。

2年生の子どもたちは生活科「電車遠足に行こう」で安曇野いわさきちひろ美術館に行き、心に残るポストカードをお土産に買ってきました。学芸員さんのお話で「学校の図書館でちひろさんの絵本を見てみたい！」とスイッチが入った子どもたち。絵本コーナーに限られていた貸し出しの枠を飛び出し、「図書館スタンプラリー」で培った背ラベルの十進分類を頼りに「本探し」をして、次々にちひろさんの絵本や伝記、画集などと出会っていききました。

ちひろさんの絵といえば鮮やかな色合いで子どもたちの顔やきれいな花が描かれたものを思い浮かべることが多いと思います。見学で「焰の中の母と子」という戦争と関わる1枚の絵を見て「この人、怖い顔をしているよ。何かあったのかな」とつぶやいたSくん。本時では、自分のお気に入りの理由を一気に書き出し、みんなの前で発表しました。

講演会は市立須坂図書館館長の文平玲子先生から、ご自身の伝記を読み聞かせしていただいているようで、魅力的な語り口にすっかり引き込まれてしまいました。私はしばらく足が遠のいていた地元の村の図書館に「行ってみようかな」とつぶやくと、司書の先生から「あんなにもたくさんの本が借り放題で、しかも^{ただ}無料！先生、行くしかないでしょ」と言われ、なるほどと納得した私は、早速翌日には図書館に足を運びました。

本校の日常は歩みを止めず、図書館は今日も大勢の子どもたちでにぎわっています。

令和3年度中信地区学校図書館教育研究会を拝見して

大町市立美麻小中学校 宮澤 理恵

同じ大町市内の二校の取り組みを拝見できる貴重な機会でしたが、私は期待とは裏腹に、これまでズーム機能に触れた経験が無かったことが不安で、ドキドキしながらパソコン画面に向かいました。ですが、その不安もすぐに払拭されました。画面の映像も見やすく、担当の先生方が見どころについて、事前にまとめてくださっていたので、要点を絞って拝見することができ、とてもありがたかったです。

大町南小学校さんの実践発表では、いわさきちひろさんについて、図書館の資料で調べることから実際に作品を見に行くところまで深く学ぶ課程を、仁科台中学校さんからは、生徒さんが選書について考える機会を持ち、購入希望本の魅力をアピールしていくまでの課程を拝見することができました。どちらも本や図書館に親しみを持つことにつながっていく素敵な取り組みだと思いました。

また、文平さんのトークは、本に対する深い愛情が感じられ、遠い昔に忘れてしまった大切な気持ちを思い出させて頂きました。魔法をかけられたような、楽しいひとときでした。

今回は、リモート開催により、多くの先生方のご苦勞があつて、この研究会が開催されたことと存じます。児童・生徒の笑顔溢れる図書館作りのために、素晴らしいヒントを頂いたことに感謝致します。ありがとうございました。

1 研究テーマ 「生きる力を育む学校図書館教育のあり方」

2 公開授業・授業研究会

会場校	授業学年・授業者	教科・単元名	指導者
南箕輪小学校	5年3組 熊谷 はる菜 教諭	総合的な学習の時間 「絵本プロジェクト」	長野県総合教育センター 上條 大樹 専門主事
南箕輪中学校	3年4組 白鳥 志津子 教諭	総合的な学習の時間 「地域に貢献～図書館 ver～」	南信教育事務所 鈴木 伸幸 指導主事

3 参加者人数 25名

4 まとめ・研究会で話題になったこと

【小学校】

学級で育てた野菜を販売し、そのお金で園児たちのための絵本を作って交流することを総合的な学習の時間の活動に据えた子どもたち。子どもたちは、どうすれば園児たちが喜んでくれる絵本を制作することができるのか、園長先生方にアドバイスをいただきつつ活動を進めることを決めだし、本授業に臨んだ。子どもたちが必要感をもちながら園長先生方にアドバイスを求め、その内容を自分たちの制作に活かそうと話し合う姿は、まさに「主体的な学び」が具現化されたものであったと感じる。



園児たちを喜ばせたいという相手意識が、子どもたちの意欲を引き出していたと感じるが、そこに「絵本」という魅力的な材が加わることで、大変充実した活動になった。図書館にある様々な資料を活用しながら制作に臨むことで「本だからこその良さ」「図書館だからこその良さ」を感じながら追求することができたと思われる。

【中学校】

愛着のある図書館を、多くの人に利用してもらいたいと思い、自分たちが貢献できることを考え活動する中で、ICT（ジャムボード）を活用しながら活動報告を発表し、意見やアドバイスを集めた。ICTを活用し、視覚的に意見を集約するだけでなく、直接質問している姿や話し合っている姿もあり、両方のかかわりがあり、探究的な学びになっていた。常に問い続けて課題を解決している姿が素晴らしく、将来、地域の活性化を考えられる生徒を育てる授業だった。



部会だよりは長野県図書館協会ホームページでもご覧いただけます。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第159号
発行日 令和3年12月21日
発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内
長野県図書館協会小中学校図書館部会 (代表 浅井かよ子)